

だ美
よ術
り館

contents

〈展覧会紹介〉「ゴッガンとポン＝タヴァンの画家たち フランス・プルターニュの光」	[2～3]
〈平成 26 年度 新収蔵品紹介〉	[4～5]
〈イベント報告〉「福井の小コレクター運動とアートフル勝山の歩み —中上光雄・陽子コレクションによる—」	[6]
〈福井の小コレクター運動とアートフル勝山の歩み 芸術支える理念根付く〉	[7]
〈イベント報告〉「ふるさと知事ネットワークによる美術館交流事業 東山魁夷と信州ゆかりの作家たち —長野県信濃美術館 東山魁夷館コレクションより—」	[8]
〈福井県立美術館 次回の企画展案内〉	[8]
〈お知らせ〉休館日・貸館情報	[8]

表紙：ポール・ゴッガン《2人の子供》(部分)1889年頃 ニイ・カールスベルグ・グリプトテック美術館 Ny Carlsberg Glyptotek, Copenhagen



ゴーギャンと

ポン＝タヴァンの画家たち

2015年

4.17[金]ー5.31[日]

フランス・ブルターニュの光

- ◇休館日：5月7日(木)、18日(月) ◇開館時間：午前9時～午後5時（入場は午後4時30分まで）*4月17日は午前10時～
 ◇主催：福井県立美術館 ◇共催：福井テレビ
 ◇後援：在日フランス大使館／アンスティチュ・フランセ日本 ◇企画協力：ホワイトインターナショナル

■料金：

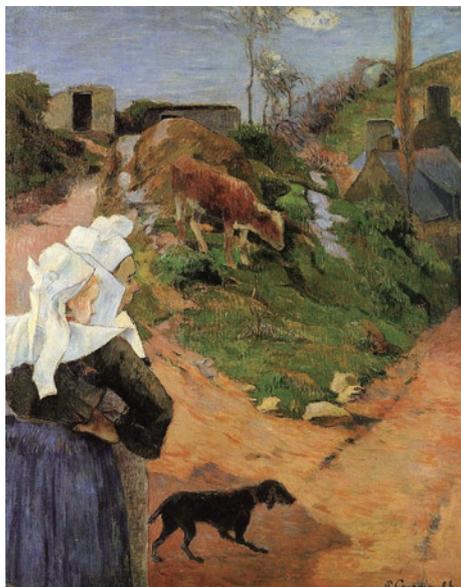
一般1000円（団体800円）
 高・大生700円（団体560円）小・中生500円（団体400円）

*団体は20名以上。*学生の方は学生証の提示が必要です。
 *障害者手帳等をお持ちの方とその介護者1名は半額。

■当日券販売：4月17日～5月31日

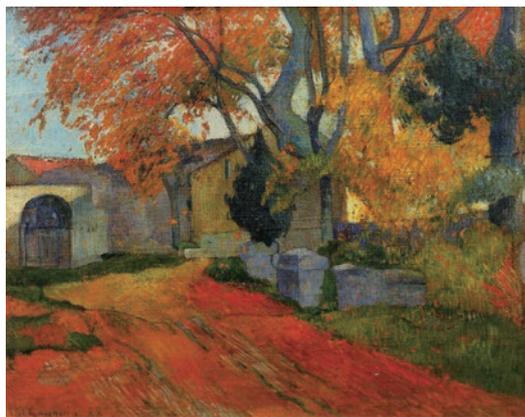
福井県立美術館、JTB各店舗、コンビニ端末：ローソン、
 ファミリーマート、セブンイレブン、
 サークルKサンクス（JTBチケット商品番号：0239721）

あっ！ゴーギャン。



ポール・ゴーギャン《2人のブルターニュ女性のいる風景》
 1888年 ニイ・カールスベルグ・グリプトテク美術館
 Ny Carlsberg Glyptotek, Copenhagen

日本を代表するゴーギャン作品であるとともに、
 ゴッホとの共同生活の時期に描かれたことでも有名
 な《アリスカンの並木路、アルル》
 （東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館蔵）
 も特別公開されます。



ポール・ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》
 1888年 損保ジャパン日本興亜美術館

1886年の夏、ポール・ゴーギャン（1848-1903）は、最終回となった第8回印象派展への出品を終えると、フランス・ブルターニュ地方の小村ポン＝タヴァンへと向かいました。変化に富んだ明るい光にあふれ、古く独特な伝統文化が色濃いこの土地に魅せられて、村にはすでに多くの画家たちが集っていました。若々しいエネルギーと大胆不敵な野心に満ちた芸術の冒険が、今始まろうとしていたのです。

彼らは、後に「ポン＝タヴァン派」と呼ばれ、大きな反響を巻き起こしながら、20世紀の美術を切り開く光となりました。そしてゴーギャンは、この地で楽園のイメージに出会います。彼にとつての楽園は、南の島ではなく、このポン＝タヴァンから始まったのです。本展では、印象派を超える新たな絵画を求めた、巨匠ゴーギャンとポン＝タヴァン派の画家たちの活動を紹介します。

フランスのカンパール美術館、プレスト美術館、デンマークのニイ・カールスベルグ・グリプトテク美術館等から、ゴーギャン12点を含む、エミール・ベルナル、ポール・セリュジエ、モーリス・ドニなど27作家による全74点を展覧します。

■関連イベント

[学芸員によるギャラリートーク]

4月25日(土)、5月2日(土) 各午前11時～ 展示室にて *本展観覧券が必要です

[見どころ解説会]

鑑賞のツボを学芸員が20分程度で分かりやすく解説します。

◎会期中の土曜、日曜、祝日 午前11時～ 講堂にて

◎ただし4月25日(土)、5月2日(土)は開催しません。 *聴講無料

[グッズコーナー] (美術館友の会)

ゴーギャンやフランス・ブルターニュに関連した書籍やグッズがお求めいただけます。

[同時開催]

テーマ展「新収蔵品／生誕150年記念 島田墨仙と近現代日本画」

*本展観覧券にてご覧いただけます

「総合主義」と「クロワゾニスム」

ゴーギャンは、志を同じくするエミール・ベルナールと共に「総合主義」と言われる絵画思想を創出しました。「総合主義」とは、印象主義的な解体的・分析的傾向への反動という意味合いもあり、現実と想像、主観と客観、感覚と美学的思想などの総合によって絵画のあるべき姿を創出しようとするものでした。そしてその「総合主義」は「クロワゾニスム」という絵画技法を通して絵画化されました。

「クロワゾニスム（区分主義）」とは、モチーフを単純化してとらえ、質感や固有色を取り除いた平坦な単色の色面を、黒く太い輪郭線で囲んで描く絵画技法で、この技法により、絵画は二次元性と装飾性と表現力を獲得しました。またこの技法の開発には、日本の浮世絵版画、中世のステンドグラス、フランスの民衆版画であるエビナル版画などの影響が指摘される。



ポール・ゴーギャン《2人の子供》1889年頃
ニイ・カールスベルグ・グリプトテク美術館 Ny Carlsberg Glyptotek, Copenhagen

我ら、ポン＝タヴァン派！



ポール・ゴーギャン
《玉ねぎと日本の版画のある静物》
1889年
ニイ・カールスベルグ・
グリプトテク美術館
Ny Carlsberg Glyptotek,



ポール・セリュジエ
《呪文或いは物語 聖なる森》
1891年 カンペール美術館
Musée des Beaux-Arts de Quimper



ポール・ゴーギャン
《タヒチの風景》
1893年頃
ニイ・カールスベルグ・
グリプトテク美術館
Ny Carlsberg Glyptotek, Copenhagen



モーリス・ドニ
《小舟のプルターニュの女性》
1891-92年
カンペール美術館
Musée des Beaux-Arts de
Quimper

【本展の見どころ】

展覧会は4つの章から構成されます。ゴーギャンと仲間たちの歩みに沿って、『第1章 1886年：ゴーギャンの最初の滞在』『第2章 総合主義の創出』『第3章 ル・ブルデュでの滞在とグループの拡大』『第4章 プルターニュでの最後の滞在、そして最後の仲間たち』の各章をたどるうちに、絵画は外界の光を写すことから、人の内面世界の表現へと舵を切って行きます。

美術史が教える、「印象主義」から「総合主義」や「象徴主義」「ナビ派」へ、といった大きな転換の流れに立ち合うとともに、ゴーギャンと仲間の画家たちそれぞれの個性や才能の輝きに出会うことが、本展の見どころといえます。風光明媚で知られるフランス・プルターニュ地方を、絵画でめぐる旅として楽しむこともまた、その魅力のひとつでしょう。

平成26年度 新収蔵品紹介

福井県立美術館で平成26年度に寄贈・寄託を受けた作品を紹介します。
作品の一部は4月17日(金)～5月31日(日)のテーマ展「新収蔵品」で展示します。



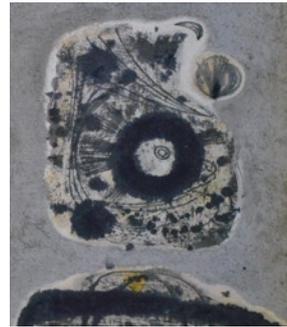
2-1 「無題」



2-2 「無題」



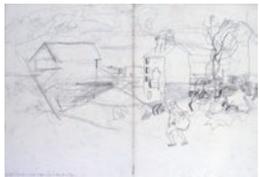
2-3 「無題」



2-4 「無題」



2-5 「無題」



2-6 画帳



2-7 使用画材

《寄贈》

日本画

1. 高山辰雄

「薫風の頃 牡丹」

2005（平成17）年頃

72.7×60.6cm 紙本着色 額装

高山辰雄（1912-2007）は、昭和-平成時代の日本画家です。日展を中心に活躍し、日本画と洋画の壁を取り除いたとも評される独特の作風を創造しました。1960年に『白翳（はくえい）』で日本芸術院賞、1970年には日本芸術大賞を受賞、1972年日本芸術院会員、1979年文化功労者となり、1982年には文化勲章を受章します。人間、風景、静物などをモチーフに神秘的な心象を表現しました。本作は小品ながら、独特のマチエールにより、高山の個性的な世界が遺憾なく発揮された優品といえます。

2. 三上 誠

福井ゆかりの三上誠（1919-1972）は、戦後の日本画前衛運動の旗手として、近年その評価は定着しており、当館コレクションにおける重要作家として位置づけられます。今回の資料は、各時代のスタイルの追及過程を伺うことの出来る小品、日本画修業時代と代表作

「F市曼荼羅」につながる画帳、そして画材が含まれています。

「無題」2-1
昭和30年代
26×37.5cm
紙本着色 コラージュ

「無題」2-2
昭和30年代
32×23cm
紙本着色 コラージュ

「無題」2-3
昭和30年代
32×23cm
紙本着色 コラージュ

「無題」2-4
昭和30年代
32×23cm
紙本着色 コラージュ

「無題」2-5
昭和40年代
32×23cm
紙本着色 コラージュ

コラージュや墨による「（無題）」1～4はおおよそ昭和30年代の前衛表現の試行作と考えられ、5の人体像は昭和40年代の「灸点万華鏡」シリーズとの繋がりを想起させます。

画帳 2-6

32.9×23.8cm

終戦の年に描かれたスケッチも含まれており、福井の戦災の記録としても、また初期の三上の確かなデッサン力を物語るうえでも貴重な画帳です。

使用画材 2-7

これらの画材は三上のアトリエに遺されていたものであり、三上がどのような絵の具を嗜好したのかなど、今後の三上研究に豊富な示唆を与えてくれます。

洋画

3. 檀尾道子

檀尾道子（1933-1988、旧姓：牧野）は、福井市に生まれ、福井大学学芸学部4年生の1955年、現代美術作家河合勇氏の勧めで美術（絵画制作）を始め、以後の約10年間を中心に旺盛な作品制作を行いました。1956年に福井大学を卒業後は美術教諭として勤め、1959年には現代美術家・檀尾正次と結婚しました。

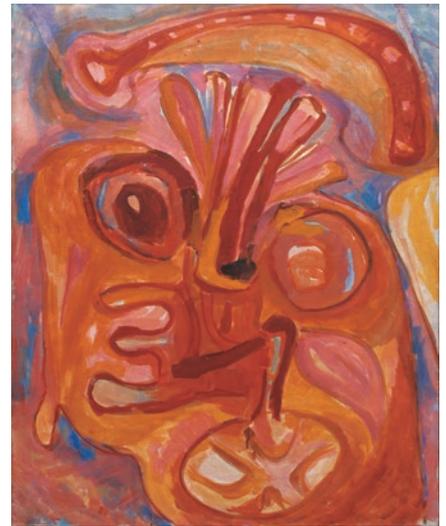
福井県内で前衛的な美術運動を展開する北美文化協会に参加し、北美的定期展などにも出品し、美術評論家の故針生一郎氏や故中原佑介氏に作品を評価されました。作品は特に北美的開催した講習会に講師として来福した



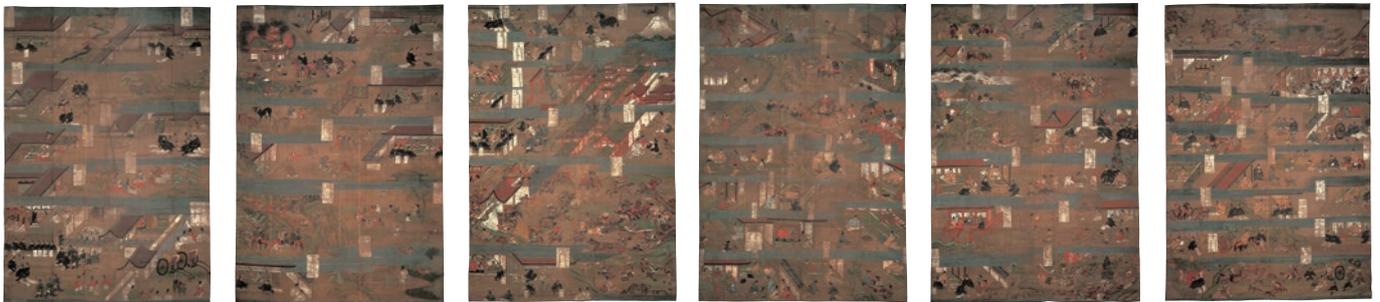
3-1「無題」



3-2「結末のない話」



3-3「太郎冠者」



4「聖徳太子絵伝」称名寺蔵

岡本太郎や、当時のアンフォルメル運動などの影響を具体的に知ることが出来る点でも貴重といえます。

「無題」 3-1

1955（昭和30）年
110.9×80.9cm
厚紙 油彩 額装

「結末のない話」 3-2

1957（昭和32）年
75.5×116.5cm
キャンバス 油彩 額装

「太郎冠者」 3-3

1958（昭和33）年
90.5×72.5cm
キャンバス 油彩 額装

小コレクター運動、 アートフル勝山関連作品

中上光雄・陽子夫妻が「小コレクター運動」、および「アートフル勝山の会」の活動を推進する過程で収集してきた作品群から約130点の寄贈を受けました。

「小コレクター運動」は美術運動家・久保貞次郎が提唱したものです。同じく久保によって1952年に提唱された新しい美術教育運動「創造美育運動」に草創期から携わっていた創造美術協会福井支部のメンバーたちは、「小コレクター運動」にも深く傾倒すること

となり、福井の地において熱心な活動が拡大していきました。

運動は瑛丸を中心に、鬚嘔や池田満寿夫らデビュー前の作家たちを支援するかたちで進められ、1978年、この運動が浸透した奥越・勝山に「アートフル勝山の会」が発足します。会はアートを身近に感じてもらうことを目的に、定期的に展覧会を開催。中央の作家を招いての講演会の実施や作品の頒布会などを行い、一流の作家と地域の人たちが直接交流する場を提供しました。

中上光雄・陽子夫妻は「アートフル勝山の会」の運営を支え、活動拠点や展覧会会場として自邸を開放し、結果的に「小コレクター運動」の理念はこの地で継承されることとなりました。コレクションは地域に根差した美術運動を検証する資料としても重要といえます。（6頁参照）

《寄 託》

4.「聖徳太子絵伝」称名寺蔵

福井県指定文化財 室町時代（15世紀）
各146.2～6×100.7～1.2cm
絹本着色 掛幅装 6幅

本図は真宗高田派寺院の称名寺に所蔵される真宗系聖徳太子絵伝で、太子の一代記を六

幅に分けて描いています。各場面をすやり霞によって区分し、そこに太子の年齢と主題が記された札名が配置され、概ね下から上へと場面が展開します。杉戸や障子など屋内の描写、山水の表現に室町時代の特徴が指摘されています。

現存する掛幅装の太子絵伝の早期作例は幅数にばらつきがありますが、愛知県・本證寺所蔵の太子絵伝を中心として、真宗系の聖徳太子絵伝の位一系統が形成されています。本図もその系統に属するものであり、三重県上宮寺本、石川県・本誓寺本などと図様や構図を共有することから、これらの絵伝制作と近い制作環境が想定できます。

本図は真宗系太子絵伝の典型作例といえるもので、県内における太子絵伝の最古例として、また保存状態も比較的良好かつ全幅完存する点も貴重といえます。

称名寺は盛綱山と号し、源氏方の武将として源頼朝に仕えた佐々木三郎盛綱を開祖とします。折立村の称名寺（現福井市美山称名寺）より分かれ、米納津村（現坂井市）、黒目村と移り、近世初期に現所在地に堂宇を建立しました。また一向一揆の際に指揮を執った下間頼照を称名寺門徒が討ち取り、柴田勝家から感状を授けられたことでも有名です。

福井の小コレクター運動とアートフル勝山の歩み

《イベント報告》

— 中上光雄・陽子コレクションによる —

日時…平成27年1月3日(土)～2月8日(日)
 主催…福井県立美術館
 協力…中上邸インザキホール運営委員会

福井県立美術館では1月3日(土)から2月8日(日)まで、中上光雄氏と中上邸インザキホール運営委員会の協力を得て「福井の小コレクター運動とアートフル勝山の歩み —中上光雄・陽子コレクションによる—」展を開催しました。

本展では、中上光雄・陽子夫妻が小コレクター運動やアートフル勝山の会の活動を推進する過程で収集してきた作品群を一堂に披露。全国的にも稀にみる熱心な活動で多くの作家を支えた福井の小コレクター運動と同運動の理念をこの地で継承し活動を続けてきたアートフル勝山の歩みをひろく紹介しました。

座談会「福井の小コレクター運動について語る」、「担当学芸員によるギャラリートーク」など小コレクター運動を検証する多彩なイベントが行われ、多くの方々にご来場いただくとともに、新聞、テレビ、ラジオ等のメディアで大きく扱われ、沢山の反響をいただきました。

ご来場いただいた皆様、この場を借りて、お礼申し上げます。

なお中上光雄氏は病気のため1月27日に他界されました。謹んで先生のご冥福をお祈りします。

《関連イベント》

◎座談会「福井の小コレクター運動について語る」

[日 時] 1月18日(日) 午後2時～

[場 所] 第4研修室

[講 師] 藤本よし子(元創造美育協会福井支部メンバー、銅版画家)、
 助田 憲亮(版画刷り師)、
 荒井 由泰(アートフル勝山の会代表)、
 山崎 義昭(大野響の会)、
 西村 直樹(福井県立美術館学芸員)

[参加人数] 約55名

この座談会は「小コレクター運動」の渦中にあった方々に越しいただき、地方都市・福井で盛り上がりを見せたこの運動について直接うかがう貴重な機会となった。



座談会講師：右から、荒井由泰、山崎義昭、助田憲亮、藤本よし子、西村直樹



 いや～、座談会面白かったねえ。聞いていたおいらたちはとても楽しかったけど、司会の学芸員は冷や汗かいていたらしい。でもそれぐらいが聞いている側としては面白い。あんまり表に出せない話もいっぱい出た。



 刷り師の助田氏の手にあるのは、一番最初に刷った響のシルスクリーン作品。まだ、25歳頃で初めてやるのだから技術が未熟(と助田氏は思っている)であったにもかかわらず、響はサインを入れてNYから送り返して来たのだという。刷り師を育てようという度量の広さと、共同作品という意識があったのだろうということだ。



 創造美育初期メンバーの藤本先生が無造作に巻紙紙から取り出したのは、動くモビールで有名なカルダールの絵だ?! かつてジャンケン争奪戦で最後の最後で負けて手に入らなかったこの絵は、或る方(出席者は分かるであろう)の好意でプレゼントされたんだって。

◎担当学芸員によるギャラリートーク

[日 時] 1月24日(土)

午前10時30分～

[場 所] 常設展示室

会期中、全国から小コレクター運動に興味を持つ方および建築関係の方々が見学ツアーを組んで大勢来られ、熱心に解説に聞き入っていた。



担当学芸員によるギャラリートーク

福井の小コレクター運動とアートフル勝山の歩み

芸術支える理念根付く

西村直樹（県立美術館学芸員）



展示風景

作品を購入することで、若き芸術家を支援する「小コレクター運動」。福井県は、半世紀以上にわたって運動の精神が継承されている、全国でもまれな地域です。

1952年、美術運動家の久保貞次郎は美術教育団体「創造美育協会」を設立し新しい美術教育を展開。同時に「作品を持たせるのが、芸術を広め理解させる最良の方法だ」として「小コレクター運動」を提唱します。県内でも鯖江市の教員・木水育男と、彼に感化された創造美育協会福井支部（福井創美）のメンバーが、57年に「福井小コレクターの会」を発足し、小コレクター運動を推進しました。

58年5月、池田満寿夫から「僕は毎日砂糖水を飲んでます」と書かれたはがきを受け取った福井創美の堀栄治は、大野市で「池田満寿夫のエッチングとリト」展を催すほか、近隣の寺社や知人宅を何軒も尋ね、59年4月に上京した際には2人で都内の画廊をまわって、池田の作品購入を呼びかけます。献身的な行動が原動力となり、前年から始まった蠶嘔と池田満寿夫の頒布会活動は支援の輪を大きく広げました。蠶嘔や池田も、毎月5種類の版画を20～50の部数で刷り、100種類以上の版画を制作。蠶嘔は58年に渡米する際の一助を得、池田は版画家として名を成すまでの間、制作に没頭できる環境に恵まれることになります。

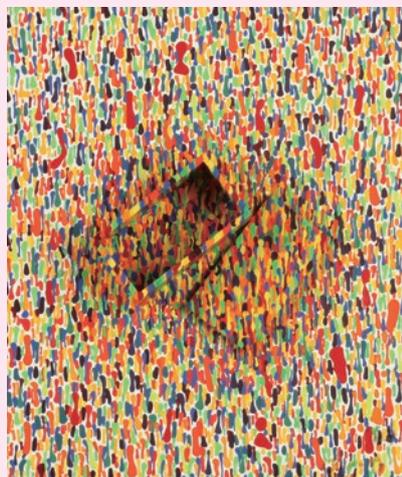
また木水と瑛九の手紙のやりとりをきっかけに、福井創美のメンバーは58年、瑛九油絵頒布会を結成します。10人の有志は、定期的に仕送りをして作品を購入し続けることを約束、瑛九からは毎月油絵が1枚ずつ送られてきました。貧しいながらも独創性を貫くことのできる環境を得た瑛九は、寝食を忘れて100号～200号の大作を描き続けます。本展出品の「黄色いかげ」をはじめ、微細な点描による油彩画の傑作の数々はこの時期に生み出されたものです。

創美運動の精神的な支柱であった瑛九が60年に亡くなると、その役割を蠶嘔が務める格好となります。福井との関係は続き、大野市に「大野蠶嘔の会」が設立され、活動は現在も継続しています。また小コレクター運動が浸透していた勝山市でも78年、荒井由泰を中心に「アートフル勝山の会」が発足します。同会は30年以上、“美術に切実な関心を寄せ、作家を支援し、これを社会に広める”という、小コレクター運動の理念を継承した活動を続け、今も小コレクターを生み出し続けているのです。

※本文は、寄稿文（福井新聞、1月16日掲載）を抜粋・改稿した。



瑛九 「黄色いかげ」
(1959) 油彩



蠶嘔 「WORK 1-C インナーレインボー」
June 1989
(1989) 立体、キャンパス



池田満寿夫 「靴の裏側」
(1968) リトグラフ



ゴーガンとポン=タヴァンの画家たち展 スペシャルメニュー

「パン☆パン」のご紹介

キャラメルジェラートと生クリームとバナナコッタが層になったデザートです。そこにフランス、ブルターニュ半島、グランドの塩田で作られた風味豊かな自然海塩と、トッピングの銀色ツブツブが「パン☆パン」感を盛り上げます。コーヒーもしくは紅茶のセットで800円。パンパン来てね。



Contact
美術館喫茶室 二ホ
open: 9時~19時
closed: 月曜日
tel: 0776-43-0310
無料 Wi-Fi
address:
〒910-0017
福井市文京3丁目16-1
福井県立美術館 正面左手
*美術館が休館でも、月曜日以外は営業しております。

《イベント報告》 ふるさと知事ネットワークによる美術館交流事業 「東山魁夷と信州ゆかりの作家たち —長野県信濃美術館 東山魁夷館コレクションより—」

平成27年2月20日(金)~3月22日(日) ●主催 福井県立美術館 ●協力 長野県信濃美術館 東山魁夷館

福井県立美術館では長野県信濃美術館・東山魁夷館の協力を得て、「東山魁夷と信州ゆかりの作家たち」展を開催しました。東山魁夷の代表作《白馬の森》のほか、池田満寿夫の代表作の数々、近現代日本画・洋画の貴重なコレクション約100点を紹介しました。会期中には学芸員によるギャラリートークも行われました。

◎ 学芸員によるギャラリートーク

[日 時] 2月21日(土)、3月8日(日)、3月14日(土)、3月21日(土)
各午前11時~12時 展示室にて
[参加人数] 160名



学芸員によるギャラリートーク



会場風景

福井県立美術館 次回の企画展案内

古代エジプト美術の世界 —魔術と神秘—



FONDATION
GANDUR
POUR L'ART



会期◎平成27年7月3日(金)~8月30日(日)

世界屈指の古代エジプト美術コレクションで知られるスイスのガンドゥール美術財団の全面協力のもと、「ヒエログリフの魔術」「素材の魔術」「色の魔術」をキーワードに、古代エジプト美術の魅力的で象徴的な特徴に注目しながら魔術と神秘の扉を開きます。

約150点に及ぶ出品作品はすべて **日本初公開**です。

- (左) 「ハスの花の香りを嗅ぐ女性を描いたレリーフ」 エジプト中王国、第11王朝 (2134-1994 BC)
- (右) 「授乳する女王あるいは女神の彫像」 エジプト第3中間期、第25王朝~エジプト末期王朝、第26王朝 (775-525 BC)

©Fondation Gandur pour l'Art, Geneva, Switzerland. Photographer: Sandra Pointet
ガンドゥール美術財団蔵

お知らせ

◎2015年5月~6月の休館日について

展示替え、館内メンテナンス等のため、次の日は休館とさせていただきますので、ご了承ください。
5月7日(木)、18日(月)、6月1日(月)~7日(日)、6月23日(火)~30日(火)

貸館情報 [6/11~6/22]

- 6/11~6/14 ● 第65回県書道展・県現代書作家展
- 6/16~6/21 ● 「三村村和男朔月勝英2人展」
- 6/18~6/21 ● 藤づるに魅せられて—染花とコラボ
- 6/18~6/21 ● 喜寿記念 酒井勝風水墨画展
- 6/18~6/22 ● 第68回示現会会展巡回福井展
- 6/18~6/22 ● 第3回若越美術展